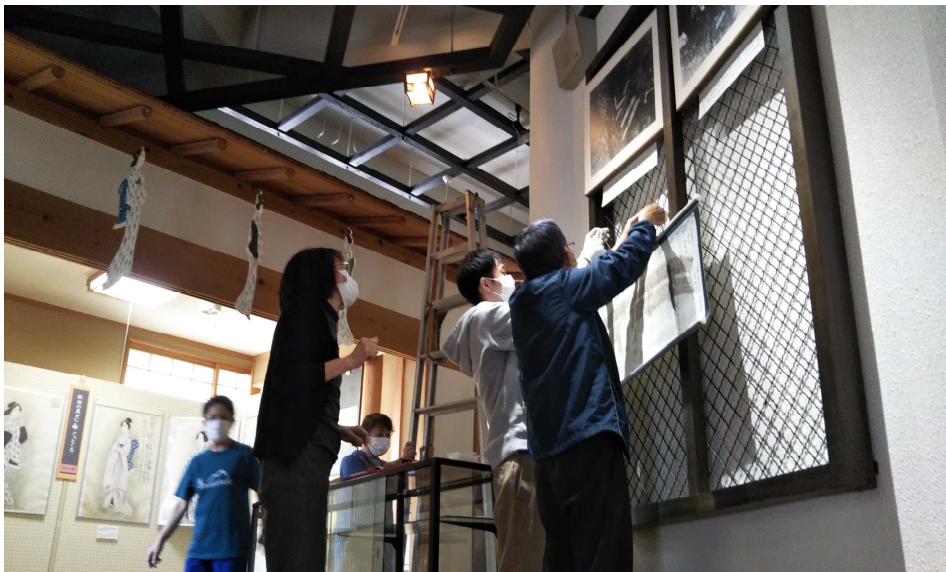


公文書館だより



▲ 公文書館・東成瀬村教育委員会連携展「アーカイブズのチカラーおらだの記憶展in東成瀬村ー」展示資料列品作業の様子。会場である「ふる里館」に資料29点を展示しました。

秋田県公文書館では、開館30周年事業として4月から11月まで「アーカイブズのチカラ」展を実施しています。上の写真は東成瀬村ふる里館で4月22日に開催した連携展の列品作業の様子です。「アーカイブズのチカラ」の地方開催版は「おらだの記憶展」というサブタイトルがついています。この展示は公文書館の収蔵資料と村教育委員会が独自で集めた地域の資料から構成されています。

「おらだの記憶展」は、今後大仙市アーカイブズ、横手市公文書館で開催します。また、8月24日からは、市町村と連携した企画展を公文書館の展示室で開催します。皆さまどうぞお楽しみに。

今後の行事予定

◆開館30周年記念公開討論会
(秋田市 アルヴェエ)

11月3日(文化の日)

◆「出羽一國御絵図展示会」
(秋田市 アトリオン)

6月9日～6月11日

◆連携展「おらだの記憶展」
(東成瀬村ふる里館・大仙市アーカイブズ・横手市公文書館)

開催中 ～ 6月22日

8月19日～10月19日

◆企画展
「アーカイブズのチカラ」

(前半) 8月24日～9月24日

(後半) 9月28日～11月5日

◆公文書館講座
●古文書解読講座

6月30日・7月7日・7月14日

●記憶の護り人養成教室

7月13日・8月10日・9月14日

10月12日・11月9日・12月14日

◆県政映画上映会

8月31日・9月1日

今後の情勢によっては変更の可能性もあります。ご了承ください

利用案内

◆開館時間

平日 9時～19時

土日祝日 9時～18時

(書庫内資料の利用申請は17時まで)

◆休館日(令和5年度)

毎週水曜日(祝日の場合は木曜日)

年末年始(12月27日～1月3日)

特別整理期間
6月8日～6月13日
12月7日～12月12日

休館日についてはウェブサイト、または当館内の掲示等で御確認ください

古文書解読講座の開催にあたり

今年度も公文書館講座の一つである古文書解読講座を初級者向け3回、中・上級者向け3回の全6回で開催します。下記の日程により各回30名の定員で募集します。

平成26年度から令和3年度まで、当館が翻刻した秋田藩家老の『岡本元朝日記』は、比較的読みやすいくずし字で書かれた古文書です。初級者向けではこれを使って読み方の基礎を学びます。当館の翻刻事業を生涯学習の教材の形で社会へ還元するのめねらいのひとつです。



令和4年度の古文書解読講座（初級編）

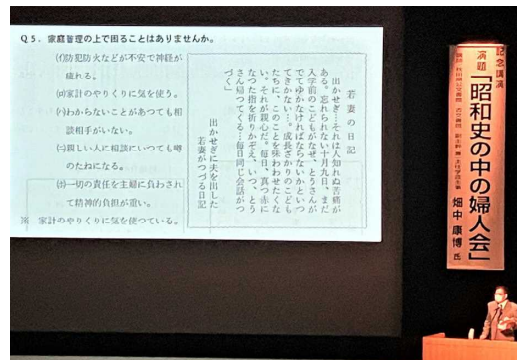
そして中・上級者向けでは、長めの古文書で各回バラエティに富む、興味深い内容のものを選んで読んでいきます。古文書に記録された江戸時代の秋田を読む、その醍醐味をご堪能いただけます。

級	回	実施日	時間	テーマ
初級	第1回	6/30 (金)	10:30~12:00	家老の日記で学ぶ古文書 - 「岡本元朝日記」を題材に -
	第2回		13:30~15:00	家老の江戸道中記 - 「岡本元朝日記」の記事から -
	第3回	7/7 (金)	10:30~12:00	岡本元朝日記に書かれた元禄の事件 - 松之廊下の刃傷、吉良邸討ち入り -
中・上級	第4回	7/14 (金)	13:30~15:00	戸村家文書に見る秋田戊辰戦争 - AT212.1シリーズ連続解説 その2 -
	第5回		10:30~12:00	「梅津政景日記」を読む - 山口啓二「秋田藩成立期の藩財政」をもとに -
	第6回	13:30~15:00	遊女たちのくらし - 「町方ヨリ揚屋へ相渡書付扣」(混29-166) その他 -	

出前講座のご案内

当館では「あきた県庁出前講座」として、地域の公民館や学校などを会場に講師を派遣しています。昨年度は22件1953名の利用がありました。写真は、昨年9月に秋田県地域婦人団体連絡協議会の第70回大会へ出前した際の様子です。

日程や内容が決まりましたら、美の国あきたネットの「令和5年度あきた県庁出前講座」から申込用紙に記入し、当館までFAX等でお送りください。そして、講座の終了後は、受講者アンケートをダウンロードして記入し県生涯学習課へお送りください。



会場：あきた芸術劇場ミルハス（秋田市）

開館30周年記念連携展「おらだの記憶展」 in 東成瀬・大仙・横手

公文書館に関する研修会では、アーカイブズを「市民の知的財産」「社会共有の記憶」といった言葉で説明しますが、これを秋田弁で表現したのが「おらだの記憶」です。

巡回展では、地元の歴史に関わる当館所蔵資料の数々を公開します。ご来場をお待ちしております。

●「おらだの記憶展 in 東成瀬村」
4月22日(土) ~ 6月22日(木)
東成瀬村ふるさと館

●「おらだの記憶展 in 大仙市」
6月27日(火) ~ 8月17日(木)
大仙市アーカイブズ
刈羽野に來た藩主行列、江戸時代の強首村、大曲農業高校創設秘話、明治時代の大仙地域の温泉などなど

●「おらだの記憶展 in 横手市」
8月19日(土) ~ 10月19日(木)
横手市公文書館
横手城下絵図、明治27年の水害、石坂洋次郎の横手中学教員任命、サイカスのプリマドンナ有田夏子などなど

武士の心得

「岡本元朝日記」から

紹介

平成二十七年から令和四年までに全八巻で刊行した『岡本元朝日記』（混架七一三八〇）には興味深い記載が数多くありました。昨年（第四十号（六月発行））に引き続き、ご紹介します。

家老職にあった岡本元朝の日記は、藩政の記述が中心とはなりませんが、赤穂事件（二・二巻）や生類憐れみの令（三・七巻）など教科書記載の出来事についても詳しく書かれています。その一方で、世間の噂話や身内の話題にも事欠きません。今回はその中から、江戸時代に全国的な流行を繰り返した疱瘡（天然痘）が、岡本家にもたらした悲劇を取り上げます。

宝永七年（一七一〇）十月二十二日の条に元朝の息子である小藤次の疱瘡発症についての記載があります。

小藤次昨暮ころより熱これ有り、煩わづらしく候間（あいだいなので）、田上宗碩葉今日より用候也、もし疱蒼（瘡）ニも候やと氣遣に存候

疱瘡の懸念は持ちつつも、藩医としては駆け出しの田上宗碩に葉を頼んでいることから、深刻には捉えていないようです。実際、高熱などの初期症状も一旦解熱して、安心した元朝でしたが、発症から十二日後の十一月四日の丑ノ刻（午前二時頃）、小藤次は亡くなります。

三折かげんの薬ニ三度用候て、子ノ刻（午前零時）ころ少能静ニ候時、小藤次申候ハ刀と脇さし持来候へと申候間、きさ（母）取出し為見候へば、手を出しさぐり候て枕元ニおき候へと申候てさし置、丑ノ刻ニ養生叶わず死候也

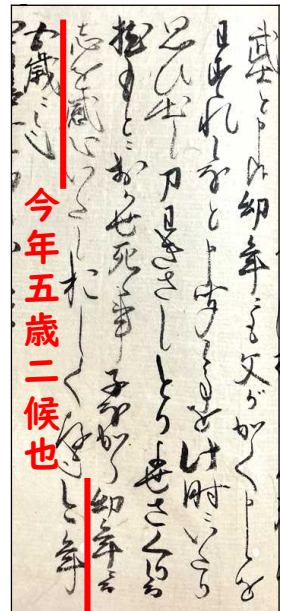
名医と称された臼井三折（藩医）の薬で落ち着いた小藤次は母きさに刀と脇差を枕元に置くように頼み、その後亡くなるのです。なぜ、刀と脇差を枕元に置いたのでしょうか。

我等当四月江戸より下り候時、刀を江戸にて持参候て小藤次ニ手より直ニとらせ候時、たわふれニ（ふざけて）此刀と申候ハ手あそび（おもちゃ）ニあらず武士ハいか様ニ落ぶれ乞食体ニ成候とも、大小（刀と脇差）ハ身をはなさず枕ニ置候て死候を武士と申候

四代藩主佐竹義格の参勤に随った元朝が、帰秋の際、小藤次のためにと刀と脇差を拵え、直接手渡ししながら、武士としての心得を大げさに説いたようです。

幼年ニも父がかく申候をわすれ候など申聞候事を此時ニいたり思ひ出し、刀・わきさしとりよせさくり候て、枕もとニおかせ死候事、子ながら幼年ニて志を感じいたし、お（惜）しく存候也、今年五歳ニ候也

「まだ五歳なのだぞ、この子は……とむせび泣く元朝の姿が目には浮かびます。このラストシーンには思わず、声が出ました。父の言いつけを忘れ



ず、自分の死に対する覚悟も持ち、武士らしい最期を自分自身で調べているのです。しかも、まだ五歳（満四歳）のこどもだったのです。その潔さに胸が熱くなりました。

元々、小藤次は聡明で、嫡子の兄・掃部の右腕になるものと元朝は楽しみにしていたのです。

疱瘡の恐ろしさ、岡本家に降りかかった悲しみが元朝の筆跡を通して伝わってきます。そして、三百年前の出来事にもかかわらず、当時を生きた人々に対して、現代とまったく変わらない共感が生じていることに気付かされます。

『岡本元朝日記』の翻刻刊行本は県内各市の図書館や各道府県の公文書館・図書館・図書館でお読みいただけます。また、日記の原本・複製本は当館閲覧室でご覧ください。

【高田環樹】

岡本元朝

【寛文元年（1661）～正徳2年（1712）】

3代藩主義処の治世において相手番、家老となる。元朝が中心となった修史事業の過程で収集・書写・編纂された『秋田藩家蔵文書』もまた『岡本元朝日記』とともに、秋田県指定有形文化財である。

秋田の戦国大名② 小野寺氏

話のついで

一昨年のこの欄で秋田の戦国大名として、秋田氏（安東氏）を取り上げました。今回は、それに引き続き、県南の雄・小野寺氏に焦点を当てます。

小野寺氏については関ヶ原の戦後に改易されたため、史料がほとんど残されておらず、これまでも「奥羽永慶軍記」などの伝承本を基に語られたりなど、謎が多くありました。近年は『横手市史』の刊行により、ベールに包まれていた小野寺氏の実像が少しずつわかるようになってきました。

小野寺氏は鎌倉時代初期に幕府から雄勝郡の郡地頭に任命され、その後は県南を中心に発展し、稲庭から横手へ進出し、戦国期には県南の有力大名となったと言われています。しかしその間の史料はなく、鎌倉期の小野寺一族は雄勝郡以外に全国に領地を持っていたと思われ、戦国期の平鹿・雄勝郡の小野寺氏との関係は明確ではありません。

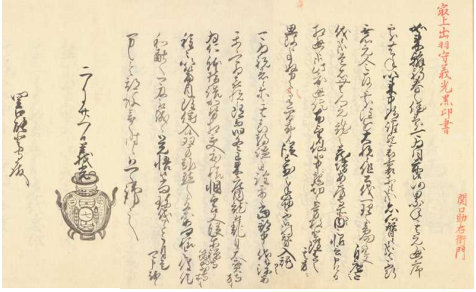
では、史料のない小野寺氏についてどのようにしてアプローチがなされたのか。

小野寺氏の一族の子孫は神戸に住んでおり、神戸小野寺文書という史料群をお持ちです。また、小野寺氏の家臣は改易後も多くは秋田に残り、佐竹氏に仕える者もいたり、角間川に集住して梅津氏の組下になったりしました。

元禄期の「秋田藩家蔵文書」編纂当時、角間川給人は岡本元朝の支配下にあり、第一一卷が岡本又太郎元朝組下角間川給人家蔵文書となっています。一三通しか収録されていませんが、下国愛季書状や小野寺義道書状など秋田県内の戦国大名の史料のほか、最上義光黒印状（写真）や大宝寺義氏書状、土佐林氏頼書状などの山形の戦国領主に関する史料があります。

元禄期の秋田藩の修史事業は、「佐竹家譜」の編纂を目的として、旧領の常陸への史料収集を行うとともに、藩士に家伝の文書を提出させました。そうして集められた史料をまとめたものが「秋田藩家蔵文書」及び「元禄家伝文書」です。その副産物として、藩士の系図をまとめた「諸士系図」も編纂されました。「佐竹家譜」は初代・義光から二一世・義宣（初代秋田藩主）までが出来て一旦終了し、その後の藩主の義隆以降から三〇世・義厚までがのちに書き継がれました。

小野寺氏の事跡は、佐竹氏の家臣となった元小野寺家臣の系図や由緒書、それに添付された文書の写などによっても辿ることが出来ます。「横手市史」では中世資料編に「秋田藩家蔵文書」に所収された県南の戦国期に関わる史料を



「最上義光黒印状」(A280-69-11-1) 県指定文化財

取り上げ、さらに補遺編として「元禄家伝文書」の小野寺家臣分がすべて収録されています。江戸期になってからの二次史料とはいえ、ほとんど残っていない小野寺関係史料として価値を持つものと考えられます。

例えば、それらの史料の分析から、『横手市史』では「奥羽永慶軍記」に載せられている天正一四年（一五六六）の有屋峠合戦（小野寺義道vs最上義光の決戦）はなかったのではないかと結論づけています。しかし、それらに相当する最上氏との戦は長く続いており、天正一五〇六年の争いを総称して「仙北干戈」と名付けています。

関ヶ原の戦いに関係して、東北では上杉景勝（西軍）と最上義光（東軍）の対立を軸に伊達政宗が絡み大きな争乱に発展しました。秋田県内では最上氏と対立していた小野寺義道が上杉方として最上領に侵攻し、最上氏と連携した秋田実乱を総称して「慶長五年奥羽合戦」と呼んでいます。

西軍の一員として敗れた小野寺義道は、改易となって石見・津和野へ配流となり、再興運動なども行いましたが叶わず、正保二年（一六四五）その地で没しました。

なお、最近刊行された『戦国武将列伝―東北編』（戎光祥出版）では、小野寺義道が取り上げられ、『横手市史』中世編を主に執筆した金子拓氏（東大史料編纂所准教授）がコンパクトにまとめています。

【佐藤 隆】

令和5年度企画展

アーカイブズのチカラ

前期 8月24日(木)～9月24日(日)

後期 9月28日(木)～11月5日(日)

秋田県公文書館は、歴史的資料として重要な公文書、古文書その他の記録の保存、利用及び調査研究並びに永年保存文書等の保存に関する事務を行うことを目的として、平成5年(1993)11月に開館しました。公文書館の設置法令は、昭和62年(1987)12月15日に制定された「公文書館法」で、その第3条には次のようにあります。

第3条 国及び地方公共団体は、歴史資料として重要な公文書等の保管及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を有する。

国が定める公文書等の「等」は、秋田県が定める「古文書その他の記録」に該当します。

公文書館が、公文書のみならず民間に伝わってきた古文書まで収集するのは、それらが先人の営みを示す証あかしになるからです。人であれ、組織であれ、この世に存在する以上何らかの形で記録を残し、時間が経過するとそれらが過去を理解する上で貴重な資料となります。それゆえ、秋田県庁で作成された公文書から団体・個人に至る様々な活動を記録した文書を保存する秋田県公文書館

は、過去の記録を未来に向けて保存する秋田県の記憶装置といえることができます。

展示タイトルの「アーカイブズ」とは、未来に向けて保存する「記録」と、記録を保存する「公文書館」という二つの意味があります。

今年には本館30周年にあたり、開館時に県庁地下書庫・県立秋田図書館・県立博物館から移管された資料、また開館後個人から寄贈された資料を展示します。加えて現用公文書が選別されて歴史公文書となった資料も展示します。

人口減少が進む本県において、公文書館が行っている県民の過去や現在の姿を未来へ伝えることは重要な取り組みであり、しかもその動きは市町村にも広がっています。展示では本館収蔵資料の他に、秋田市・大仙市・横手市を始めとする県内市町村のアーカイブズ機関等から、御自慢の逸品を展示する予定です。

公文書館に所蔵されている資料を紐解くと、茫漠たる過去に先人が生きた痕跡を見出すことができます。悠久な時間の流れを感じ、生きるチカラを観覧者の皆様に感じて頂く展示にしたいと考えています。

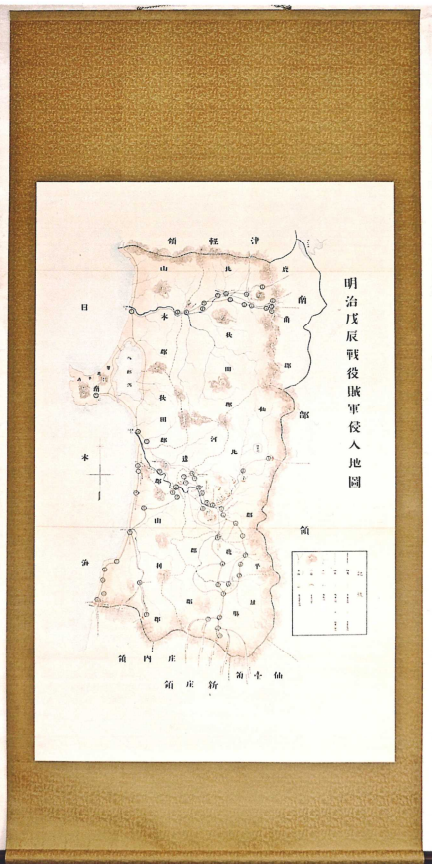
【畑中康博】

こんにちには！ 記憶の護り人さん

昨年度から開講した新たな公文書館講座「記憶の護り人養成教室」。今年度は、県内外から8名の方が新規に受講しました。こんにちには！

昨年度からの受講生と一緒に古文書整理の基礎を学んでゆきましょー！
そして、古文書を整理できるノウハウを地域に持ち帰りましょー。新規参加者の方々に聞きました。「史料整理も経験できるのが楽しみ」
「他の人を参考に少しずつ読んでゆくのが大変勉強になった」などなど。みなさん、5月から12月まで毎月1回楽しく頑張りましょー。

*年度途中での募集はしません。



▲展示予定の「明治戊辰戦役賊軍侵入地図」(県C-613)。昨年度修復し初お目見え。



午後の部はよいよ史料整理の実習
今年度はどんな古文書を整理するのか
わくわく、どきどき！

公文書館開館30周年記念展 アーカイブズのチカラ

「出羽一國御絵図」展示会

絵図の上を歩く♪ 30周年ならではの夢の企画

6月9日(金)から11日(日)の

3日間、秋田総合生活文化会館アトリオン(秋田市中通)を会場にして、「出羽一國御絵図」のレプリカ(複製物)を公開します。

正保4年(1647)に江戸幕府が諸大名に命じて作成・提出させた国絵図の一枚で、当館で所蔵するのは、出羽国の絵図元になった秋田藩が提出した原図の控と考えられています。5・35×12以上の巨大絵図で、昭和25年(1950)に県庁書庫で発見された際、一般公開され大きな反響を呼びました。73年前、アーカイブズのチカラが、終戦後の県民に大きな感動を与えていたのです。

今回公開するのは、当館が開館20周年の際に製作した原寸大のレプリカです。アトリオン地下一階の床面に置いて展示し、履物を脱いで上を歩いてもらい、極彩色の巨大絵図の圧倒的迫力を堪能していただきます。また、久保田城下絵図などの複製絵図も多数展示しますので、ぜひご来場ください。



「出羽一國御絵図」(県C-603)

※出羽国は現在の秋田・山形県域に大部分重なる

出版掲載放映等許可申請について

当館所蔵資料の複写物は、許可申請により、出版・掲載・放映又はウェブサイト等へ掲載することが可能です。映像資料の上映なども行うことができます。

許可申請があった場合、公文書館長は、①公文書館の設置の目的に反するおそれがないか、②公文書館の業務に支障をきたすおそれがないか、③第三者のプライバシー等の人権を侵害するおそれがないか、等の要件を審査し、可否を決定します。

申請手続きの説明や申請書等の様式は、当館公式ウェブサイトに「閲覧室と資料のご利用方法」に詳しく記載しておりますので参考としてください。



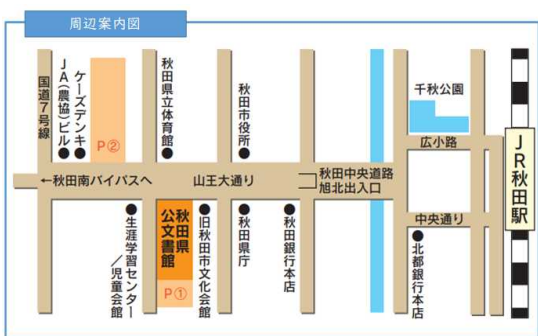
昭和39年東京オリンピック
秋田県内聖火リレー

編集後記

秋田県公文書館は平成5年(1993)に開館し、今年11月で満30年を迎えます。30年前、建物の周囲に植えたケヤキの細い若木も、今や蔭が絡まる太い幹に。開館年の夏、植木周囲のセメントの乾かないタイルを踏んで怒られたのも懐かしい思い出。

30年前は旧県立秋田図書館古文書係から継続した『御亀鑑』全7巻翻刻の終盤でしたが、その後『渋江和光日記』全12巻、『宇都宮孟綱日記』全8巻、『岡本元朝日記』全8巻を刊行し、昨年度から『野上陳令日記』に入りました。翻刻事業もだいたい年輪を重ねています。

樹齢30年の当館、北欧神話の宇宙樹は大袈裟ですが、将来は秋田の記録を覆う大樹を目指せば…(柴)



当館ツイッターはこちらどうぞ



編集発行：秋田県公文書館(秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設)
電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303 最寄りバス停：県立体育館前
URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/>